

20. 校内研修計画

1 令和6年度 校内研究テーマ

自ら考え、共に学び合う児童の育成 ～ ICT 活用の授業実践を通して ～

2 テーマ設定の理由

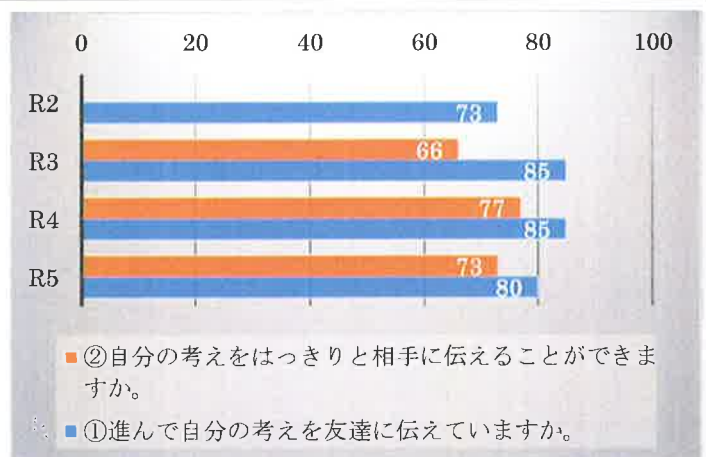
近年、知識・情報・技術をめぐる変化の速さが加速度的となり、人工知能（AI）が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化される IoT が広がったりするなど、Society5.0とも呼ばれる新たな時代の到来を向かえている。

沖縄県教育振興基本計画（R4～13）では、主要施策1を「生きる力」を育む学校教育の充実としている。その中の主な施策として「ICT活用による個別最適な学びや協働的な学びの推進」「主体的・対話的で深い学びを実践できる教員の指導力向上」等が求められている。

本校では、「主体的」に学習に取り組むためには、ICTを活用した日々の授業の実践が、児童の好奇心や学習意欲の高まりに火をつけ、「主体的に学習へ取り組む児童の育成」につながると考え、研究を進めてきた。その取り組みの成果と課題は、下記のとおりである。

成果	<ul style="list-style-type: none">ICTを活用することで、主体的に学習に取り組む児童が増えた。意見や書くことが苦手な児童が、ICTを活用することで意欲的になった。ICT活用を意識した授業実践ができた。
課題	<ul style="list-style-type: none">興味関心をもって自主的に学習する児童が増えてきたが、主体的に学習するまでには至っていない。操作方法やルールの確認に時間を要してしまい、考える時間や共有する時間を十分に確保することができなかった。教師のICT活用の仕方、工夫、技術力の向上が必要。

児童アンケート結果【図1】において、「①進んで自分の考えを友達に伝えていますか」の項目は年々数値の上昇が見られたが、R5年度は前年度より5%減となった。不慣れなICT機器操作に時間がとられ、交流の場が減ったと考えられる。そして、「②自分の考えをはっきりと相手に伝えることができますか」の項は、どの年度も①項の結果と比べると下回る数値となった。これは友だちとの交流は積極的だが、自分の考えを整理して相手に伝えているという実感を得ていないと考察することができる。



【図1】 児童アンケート結果

そこで、今年度はこれまでの研究を土台とし、「自ら考え、共に学び合う児童の育成」につなげていくために、授業の中で児童が活発に意見や考えの交流ができるような手立てを工夫する必要があると考える。

さらに、児童の確かな学びのために「学習規律」「自己存在感」の確立も重要であることから、「玉小授業スタイル」を継続し、「ふり返りを生かした授業づくり」「Q・U アンケートを生かした児童理解・学級集団づくり」についても研修を深め、望ましい学級集団の中で児童は楽しみながら共に学び合えるようチーム玉小としての ICT 活用能力の向上をめざしていきたい。

3 研究仮説

○ICT 活用で児童の考えや学習状況を的確に捉え、授業の交流の形態や場の設定を工夫していくことにより、自ら考え、共に学び合う児童を育成することができるであろう。

4 研究目標

「自ら考え、共に学び合う児童」を育成する学習指導の在り方を、児童の実態や各教科の特性に応じた「ICT 活用」の工夫を通して探っていく。低学年・中学年・高学年における目指す学びの姿は、以下の通りである。

- 低学年では、ICT 機器を用いて自分で簡単な操作を行い、学習に取り組むことができる。
- 中学年では、ICT 活用で自分の考えを整理し、学習に取り組むことができる。
- 高学年では、教科の特性に応じた ICT 活用のよさを生かして、自分の考えを整理・焦点化し、主体的に学習に取り組むことができる。

5 研究の視点

「自ら考え、共に学び合う児童の育成」のために、次の視点を授業改善の重点として実践研究とする。

- 視点① 教科の特性に応じた効果的な ICT 活用
- 視点② 「自己存在感を高める」指導の工夫

6 研究内容

(1) 「ICT」の活用

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| ア 「授業における ICT 活用」についての理論研修 | イ 「ICT」のワークシート作成 |
| ウ ICT 活用をいかした「学び合い」の充実 | エ ワークシートを活用した「振り返り」 |

(2) 「自己存在感を高める」工夫

- ア 「Q-U アンケートを活用した学級づくり」の研修
イ 「自己存在感を高める」指導の工夫

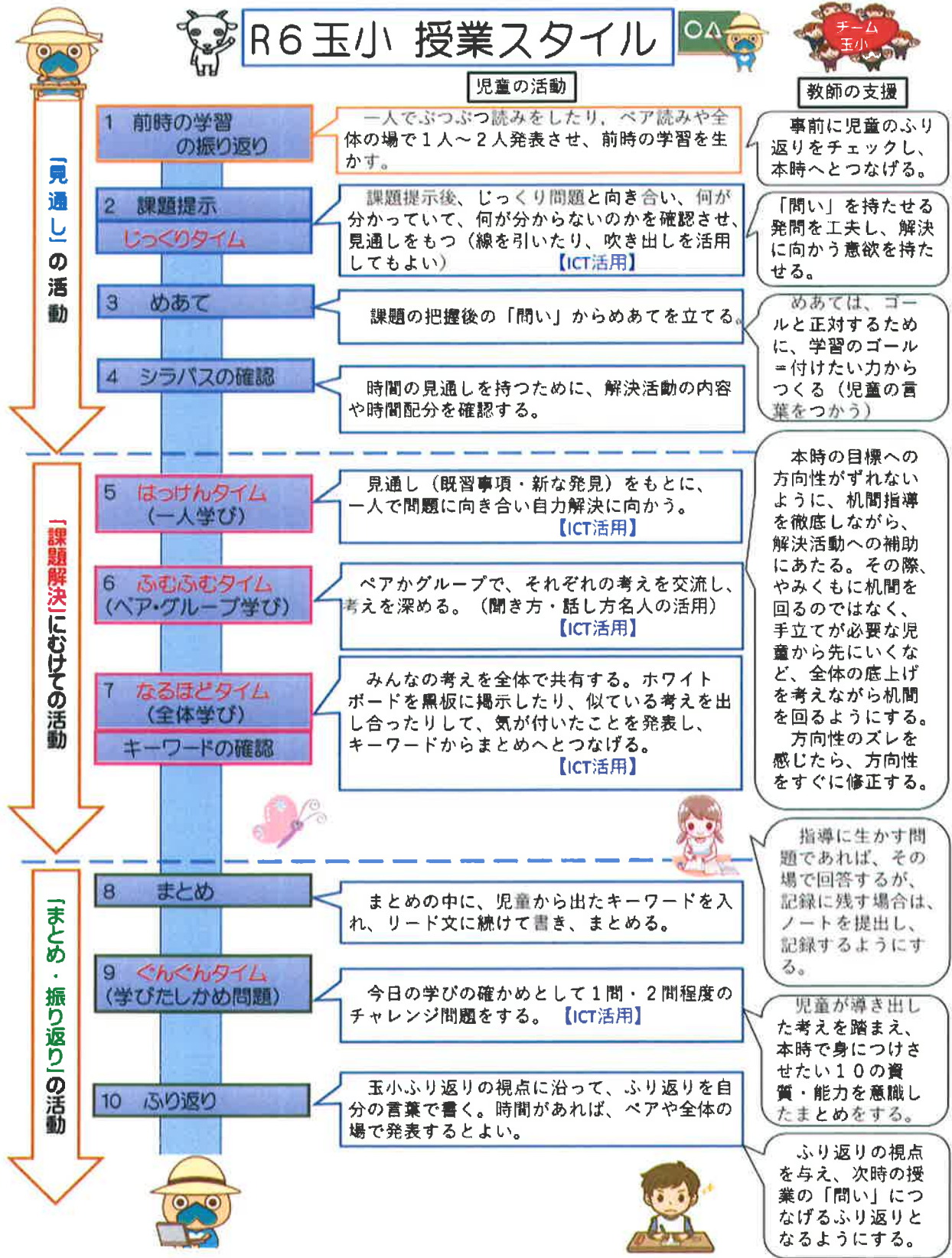
7 研究方針

- (1) 研究については、全職員の共通理解のもとに推進する。
- (2) 授業の工夫改善を通して、自分の考えをもち、学び合う態度を育てるように努める。
- (3) 全体研究は共通理解の場とし計画に応じて講師を招聘し「ICT 活用」についての研修を深める。
- (4) 研究テーマに迫っていくために、学習指導法の理論や指導過程の研究を深める。
- (5) 各教科等の特性に応じた「ICT 活用」の教材選定・実施に向けた理論研修に努める。
- (6) 研究時間の確保の為、毎月第2木曜日を校内研修日に位置づける。
- (7) 授業研究会は原則として、金曜日の5校時に位置づける。
- (8) 全体研修は原則として、授業研究会（主事招聘）をもち、その後一人一授業（隣学年研）を行う。年度当初に確認する。
- (9) 研究会の持ち方を工夫し、自主的に研究会をもつ。また、検証方法に基づいて、研究の成果・課題をまとめる。指導案の様式は各学年で検討する。
- (10) 実践後は、修正した指導案と成果と課題をまとめ、ワークシートや写真等の記録を保存する。

8 共通実践「玉小そろえる実践」

「主体的に学習に取り組む児童の育成」を図るため、以下の共通実践に取り組む。

① 「玉小 授業スタイル」を共通実践とする。



② 振り返りを生かした授業づくりとして、「振り返りの視点」を全学年の共通実践とする。

【振り返りを書くポイント】

(1年生～3年生：低学年用)

ふりかえりを書くポイント

- ➡ ① 今日きょうの学習がくしゅうで分わかったこと
- ➡ ② 友ともだちの発表はっぴょうや交流こうりゅうで気きづいたこと
- ➡ ③ もっと調しらべたいこと、知しりたいこと
- ➡ ④ 次つぎの学習がくしゅうにつななげたいこと

【振り返りを書くポイント】

(4年生～6年生：高学年用)

ふり返りを書くポイント

- ➡ ① 今日けふの授業じゅぎょうでわわかったことや考かんがえたこと
- ➡ ② 友とも達の発表はっぴょうや交流こうりゅうで深ふかまったこと
- ➡ ③ もっと調しらべたいことや疑ぎ問もんに思おもったこと
- ➡ ④ 次つぎの学習がくしゅうや生活せいかつにつななげたいこと

③ 「話し方・聞き方 玉小キャッチボール」の視点を全学年の共通実践とする。



**話し方・聞き方
玉小キャッチボール**



話し方さん

- ➡ ① 伝えるように意識する
 - あ 聞こえる大きおおきで
 - い ノートしりょうや資料しりょうを見みせたり、ゆびゆびでささしながら話はなす
 - う ざいございごまで、ははっきりと話はなす
- ➡ ② 質問しつもんや意見いけんには、はっきりと答こたえる

聞き方さん

- ➡ ① 聞き取るように意識する
 - あ うなずうなずきながらざいございごまで聞きく
 - い 自分じぶんの考かんがえと同おなじところところやちがうところちがうところなどを考かんがえながら聞きく
 - う 質問しつもんや意い見けんを伝つたえられるように聞きく
- ➡ ② 質問しつもんや意い見けんは、はっきりと話はなす

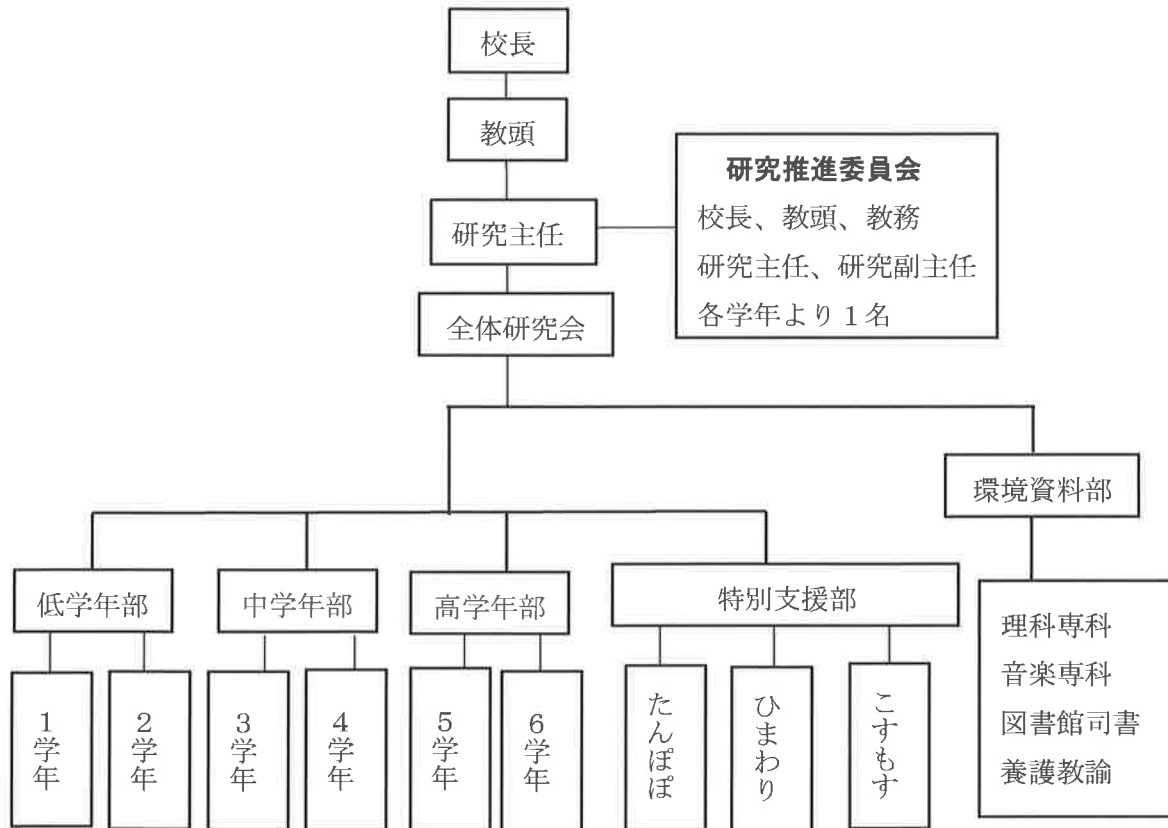
④ 「学習キーワード」の活用を全学年共通実践とする。(めあてとまとめの正対)

本時のめあて達成に向けて、教科の特性に応じて「今日の学習キーワード」の問いかけを行う。(教科や内容によっては、導入の段階において、全体で確認していてもよい)

今日の学習のキーワードは何だろう？

「はい、10のまとまりをつくる」です。

9 研究の組織



研究推進委員会の役割

- ア, 研究の全体計画 (研究の方向付け)
- イ, 日程調整 (各学年の日程調整)
- ウ, 研究紀要の編集等全体的な研究推進に関わること
- エ, その他関連すること

部会の役割

- ア, 理論研究
- イ, 隣学年で指導案を作成、検討
- ウ, 研究授業の実施
- エ, 授業を参観、反省、評価
- オ, 研究紀要の編集

全体研究会 (全職員の役割)

- ア, 授業研究会を主として理論を含めて研究を深める。
- イ, 研究の方法や推進について共通理解を図る。
- ウ, 各学年からの課題を検討し研究活動の進化を図る。

環境資料部の役割

- ア, 研修に関わる環境の整備
- イ, 資料の整理・収集を図る。
- ウ, アンケート調査の集計・分析
- エ, 人材リストの作成

10 研究の全体構想

【教育実践テーマ】 — 笑顔の登校 満足の下校 —
夢や希望を育み、心豊かにたくましく生きる「ぐすくっ子」の育成



【めざす教師像】

- ・情熱と使命感をもち、常に修養に努め識見ある教師
- ・子供のよさを認め、寄り添う教師
- ・保護者や地域とつながる教師

学校教育目標

- 進んで学習する子
- 心豊かで思いやりのある子
- 最後までやり抜く子

【期待する保護者像】

- ・「生きる力」の基礎となるしつけのできる保護者
- ・生活リズム（早寝・早起き・朝ご飯・家庭学習等）を大切にし、気力・体力を育てる保護者
- ・個性や能力を見つけ伸ばす保護者

【めざす児童像】

- ・学習の喜びや楽しさを味わうことのできる児童
- ・学習で得た知識・技能を確実に身につけ活用できる児童
- ・めあてや見通しをもち、思考を深め、課題を解決する児童

学習指導要領改訂の背景・方向性

- 【背景】**
- ・学習内容だけではなく、資質・能力の育成が重要
- 【方向性】**
- ・何を学ぶか（内容）
 - ・どのように学ぶか（方法）
 - ・何ができるようになるのか（評価）

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力
- 学びに向かう力・人間性

沖縄県学力向上推進
5か年プラン・プロジェクトII
「3つの視点」と「5つの方策」

視点1 自己肯定感の涵養	視点2 学び・育みの実効性	視点3 協働的な関わり
方策1 【主体的な学習】	方策2 【協働的な学習】	方策3 【共通の学習】
方策4 【学習環境の整備】	方策5 【学習者の育成】	方策6 【学習者の育成】

玉小小学校の現業に海に向けてほしい
10の資質・能力

協働する力 | 自分を律する力
自分を認める力(自尊能力) | 他者理解力
課題解決力 | やりぬく力
考えや思いを伝える力 | 豊かな生活をする力
将来設計力 | 健康な身体をつくる力
キャリア教育を通して

【研究主題】

自ら考え、共に学び合う児童の育成
~ICT活用の授業実践を通して~

自己存在感

【研究仮説】

○ICT活用で児童の考えや学習状況を的確に捉え、授業の交流の形態や場の設定を工夫していくことにより、自ら考え、共に学び合う児童を育成することができるであろう。

研究の視点

- 視点① 教科の特性に応じた効果的な ICT 活用
- 視点② 「自己存在感を高める」指導の工夫

児童との関係づくり

- 生徒指導 4 機能と児童理解に基づく指導
- 児童の居場所づくり・活躍の場づくり

めざす授業像の共有

- ・「問い」が生まれる授業
- ・「主体的・対話的で深い学び」のある授業
- ・学ぶ意欲を高める指導の工夫
- ・ICT を効果的に活用した授業づくり
- ・地域人材、専門家を活用した授業の工夫
- ・コミュニケーション能力の育成
- ・授業公開と確かな教材研究（一人一授業）
- ・授業の開始・終了時刻の厳守、授業開始前の立腰と黙想の実施
- ・「Mタイム」の充実
- ・専門性の向上（一研究）

研究内容・方法

【基礎研究】

- ・「ICT活用」についての研修
- ・「Q-U アンケートを活用した学級づくり」の研修
- ・教科の特性に応じた問いを解決するために適した ICT 活用と実践
- ・「学び合い」を充実させるための研修
- ・ふり返りを通して児童の変容を見取り授業の工夫・改善を図る

【授業研究】

- ・学年協働体制による教材研究と指導案づくり
- ・共通実践の取り組み
- ・代表授業と全員授業（一人一授業）の実施
- ・授業研究会の充実
- ・実践を通じた授業分析と改善

玉小ルール（学習規律・生活規律）の共通実践と徹底

11 令和6年度 校内研修・研究計画

学期	日程	回	研究内容	組織	担当
1 学 期	4月3日(水)	1	ICT活用講習会(電子黒板・クロームブック)	自主研	情報担
	4月 日()	2	児童に対する緊急時対応研修	全体研	養護教
	4月25日(木)	3	校内研修計画・そろえる実践の確認「玉小授業スタイル」「ふり返り」・全体授業・一人一授業について	全体研	研究主
	5月16日(木)	4	心肺蘇生法研修 授業者決定・指導案形式共通理解	全体研	体育主 研究主
	5月23日(木)	5	校内研究アンケート実施(児童向け)1回目	各学級	研究副
	6月20日(木)	6	スクリーニング研修	全体研	教育相談
夏 季 研 修	7月25日(木)	7	夏季校内研修①校内研修・研究について	全体研	研究主
	7月25日(木)	8	夏季校内研修②ICT活用研修	全体研	研究主
	7月26日(金)	9	夏季校内研修③自己存在感を高める研修	全体研	体育主
	月 日()		南城市教職員研修会		市教委
2 学 期	9月7日(木)	10	隣学年による授業研究会(学年)	隣学年	隣学年
	9月15日(金)	11	隣学年による授業研究会(学年)	隣学年	隣学年
	9月19日(木)	12	授業におけるICT活用研修(R5センター出前研修)	全体研	研究主
	9月26日(火)	13	隣学年による授業研究会(学年)	隣学年	隣学年
	10月11日(水)	14	指導主事招聘による代表授業(学年) 授業研究会	全体研	研究主
	12月1日(金)	15	隣学年による授業研究会(学年)	隣学年	隣学年
	12月5日(木)	16	研究紀要のまとめ方について 各学年の実践・成果と課題について	職員会 議	研究主
	12月8日(金)	17	隣学年による授業研究会(学年)	隣学年	隣学年
3 学 期	12月5日(木)	19	校内研究アンケート実施(児童向け)2回目	各学級	研究副
	1月9日(木)	20	校内研究アンケート(児童向け)の結果と考察 各学年の成果と課題提出	全体研	研究副
	2月6日(木)	21	今年度の成果と課題・研究紀要指導案提出	学年研	研究主
	3月13日(木)	22	教職経年研修(2・5・10年いれば)実践報告	全体研	研究主
	3月13日(木)	23	次年度の研修計画の検討・決定	全体研	研究主